

何の不安もなくずんずん歩ける町

ロスキレ・街歩き

レポート：山口和男

★はじめに

9月28日(水)この日、研修5日目。終日、自由研修ということで、かなり疲労も溜ってきたこともあって、私はコペンハーゲンやオーデンセではなく、ダンホステルで市内の地図をいただき、できるかぎり歩いてみることにしました。目標をダンホステルの前のロスキレフィヨルドの対岸にある **Vigen Strandpark** に定め、行きは家の続く丘陵地を通り、帰りはフィヨルド沿いの道路を歩いてダンホステルに着く計画にしました。9時半ごろの出発でしたので、全体として人影はあまりなく一人旅を満喫しました。

★ブナの大木とトチの実

はじめに連日通っているダンホステルの近くの大きな公園、**Byparken** を通り、それにほぼ接続している公園 **Folkeparken** をゆっくり歩きました。**Folke** 公園ではブナの大木が繁り、広い芝生で高校生たち20人位が体育と思われる授業をしているところでした。うらやましいかぎり！

緯度のせいでしょうか、平地にブナの大木やトチの大木が繁っていて、この日もいたるところでトチの実が路上に沢山落ちているのに出会いました。日本では山奥に行かなければみられない光景です。(我が家のピアノの上に拾った大きなトチの実「2016.10.1. ロスキレ」と書いたものが記念に置いてあります。)

★公園墓地

幹線道路01のサークル交差点を渡り、前日、中能さんからこの公園もいいですよー

一と言われていた公園を訪ねたところ、**Ostrekirkegard** という名称で、日本で言えば“墓地公園”ということでしょう。緑いっぱい、30分位散策しましたが樹木や花に囲まれて、それぞれ個人のものでしょうか、個性にとんだものもたくさんあって、字が理解できたらもっと深く味わえるのではないかと思いました。葬儀が行われた名残ではないかと思われる花束などが沢山置かれている場所もありました。清掃の方が車で回っていましたが、緑の中に静かに霊が休んでいました。

★道路と安心感

公園を出た道路のところにもトチの実がいっぱいころがっていました。しばらく歩くと電動で動く車イスに乗った方とすれ違いました。自転車で通り過ぎる方もおります。歩いていて、何の不安もなくずんずん歩いているのに気が付きました。日本では考えられない安心感です。大きな通りは自動車用、自転車用、歩道と3つに区分されているのがそうさせているのでしょうか。やはりデンマークは最高地点が200mということですから自転車が発達し、その文化が道路区分にも示されているということなのでしょう。

道を歩いていて感じるのは日本ならコンビニや自動販売機、商品の看板があるのにそうしたものがまったくありません。実に静かで自然に包まれた街です。

★たくましい男子

公園墓地を出て大きな道路をずっと下りながら、今度は上り坂になったところで初め

て人間らしい営みに出会いました。道路工事です。この間、研修で訪ねたところでは、「ストロングレディ」ばかりでしたので、たくましい男子はいないのかと期待して見ていました。4～5人が働いていて地下に埋設する長い管が7～8本置かれていて、光ファイバーのような高度な作業をしているように見えました。「こんなものを使っているのか。すごいな」と土木作業の中にもデンマークの福祉を見つけた感がありました。

すでに歩いて1時間を超え、Himmelev Skoleの側を通り、そして小さな教会のあるHimmelevkirkeまできました。ここも墓地でしたが、中に入るのは遠慮しました。

★内村鑑三・デンマーク国の話

ここから斜めにずっと下っていけば目的地のVigen Strandparkです。歩きはじめて民家もなくなり、下の方に牧草地が広がっているところに立ちました。とても景色がよいので、草地に座って水を飲むことにしました。

「デンマークの富は主としてその土地にあるのであります。その牧場とその家畜と～」——内村鑑三の「デンマーク国の話」を研修の資料で読ませていただいたので、この言葉の意味を理解できるところに「今、いるのだな～」と感じたりもしました。

牧草地を見ながらしばらく下ると高級な住宅地が見えてきました。すなわちここは、ロスキレフィヨルドを見おろす高台で、オーシャンビューというところなのでしょう。遠方に目的地が見えてきました。

★車イスの黒人女性

坂を下り終えたところでロ

スキレフィヨルドに沿った幹線道路に出ました。大きな貨物などの車の通行がかなり目立つようになりました。この頃から風が強くなり帽子も飛ばされそう。すでに2時間は歩いたでしょうか。疲労感もかなりのところまでできています。目的地が見えるのですが、風も寒さもひどくなってきたので無理をしないことにしました。

帰りはフィヨルド沿いに歩くだけ。ハマナスの写真を撮ったり、白鳥を撮ったりしながら、どんよりした雲の下を歩きつづけました。シーサイドということもあって、敷地の広い高級な住宅が続きます。そして目につくのがデンマークの国旗を吹き流しにしている民家が多いこと。しばらくすると、道路の反対側で車イスに高齢の黒人の女性が座って、それを30代か40代の男性が押しながら、散歩しているのに出会いました。とても自然な当たり前のことのように通り過ぎていくのですが、私には何か「はっ」とするような心の動きが生まれて、しばらく行きすぎるまで立ち止まっていました。

ダンホステルに到着したのは12時を過ぎていましたから、3時間近い街歩きとなりました。その後、ビールを飲んでぐっすり休むことができました。



<公園墓地>